

にこり

ながさき

ようこそ、笑顔咲く長崎県へ

Nagasaki Discovery Magazine ni-ko-ri

長崎県

No.

16

歴史と人が織りなすストーリー

時津・長与

「普段」を贈る、
「特別」を選ぶ。
あの方に
届けたい
ふるさと自慢。



美しい自然と豊かな歴史に育まれ、
私たちの暮らしに根付いたふるさとの品々。
いつも身近にあるものだから、普段、味わっているものだから安心、納得。
今年は「普段」に「特別」な思いを込めて、
お歳暮は長崎県産品。

長崎県物産館
冬のギフトコーナー

多数のお歳暮・お年賀好適品を取り揃えて皆様のご来館をおまちしております。

営業時間 9:00～18:00 休館日 12月29日(土)～1月3日(木)
場 所 長崎市大黒町3番1号(県営バスターミナル2階) 問い合わせ TEL.095-821-6580
メー ル bussan@e-nagasaki.com ※ギフトカタログは無料で閲覧しています。

12月24日(月)まで 年内お届けは、12月20日(木)受け付け分までとさせていただきます。



ネットで長崎名物をお取り寄せ!

詳しくはWebで

いいながさき

検索

(社)長崎県物産振興協会

にこり

表紙のはなし オリーブ
長与町で育ったオリーブの実。収穫後は実を
搾り長与町産のオリーブ油となる。今後、長
与町の新しい特産品として展開していく予定。

平成24年11月発行
編集・発行 / 長崎県広報課 〒850-8570 長崎市江戸町2-13
電話095-895-2021 メール:ni-ko-ri@pref.nagasaki.lg.jp
デザイン / (有)イースワークス 印刷 / (株)インテックス
http://www.pref.nagasaki.jp/koho/plaza/dream/

長崎県

定期購読(無料)
の申込は
こちらから



歴史と文化が響き合う

時津町

ふるさと再発見 — Torisan 地域特集 時津町 Torisan Town

時津街道の歴史を
ひもとけば、
古くて新しい
まちの姿が
浮かび上がる。



江戸時代、長崎は世界に開かれた唯一の窓口であった。当時、長崎のまちには学問を志す者たちが大勢集まる一方、西洋からやって来た珍しい品々は長崎から全国へと伝わった。それらの人や物が通った道——それが長崎と小倉を結ぶ「長崎街道」である。

この長崎街道に裏街道があったことをご存知だろうか。長崎市内の西坂から浦上、時

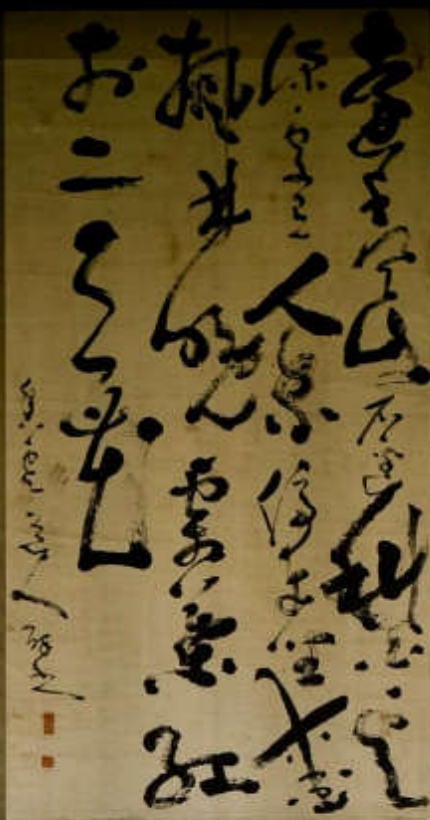
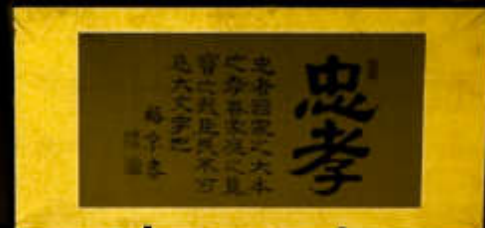
津を経て、彼杵の海路へいたる「時津街道」(別名「浦上街道」)である。長崎街道に比べて天気が良ければ西坂から彼杵までの旅程を一日短縮できるこの裏街道は、長崎奉行所立山役所入りする江戸幕府用人、文人、商人など多くの人が往来し、賑わったという。

現在、時津町には大型商業施設や住宅が建ち並び、今も開発が進んでいる。しかし、どこかのんびりとした空気がまち全体を包み込み、暮らしやすいからか、人口は年々増加している。今回はそんな住宅地に囲まれた時津町で江戸時代の面影を探す旅に出た。裏街道には、表街道にはない魅力が眠っているはずだ。

住宅地に眠る
江戸の面影を求めて



茶屋跡



かつては
大村藩のお殿様も
くつろいだ一間

江 戸時代、彼杵港を出た舟は大村湾を渡り、時津港へと着く。現在は美しい公園が整備され、犬の散歩やウォーキングなど、のんびりとした時間を楽しむ人々の姿が見られるが、当時は長崎街道の近道だったことから、時津港周辺は大変な賑わいだったという。

この港に降り立った人々の中には過酷な運命を背負った人たちもいた。港には「日本二十六聖人上陸の地」と書かれた碑が建っている。一五九七年二月四日、彼杵港から小舟で大村湾を渡った一行は夜十一時頃に時津港へ到着。雪が降る寒い中、空腹と疲労に耐えながら舟の中

で最期の夜を過ごしたという。翌日、彼らは自らの処刑場となる西坂へと向かったのである。時津港から望む大村湾はどこまでも穏やかな表情をしている。四百年前、彼らはどんな想いでこの波に揺られたのだろうか。時津港から街道沿いに歩みを進めると、風情ある佇まいの建物に出会った。これは諸大名や幕府役人の休憩、宿泊所として建てられた「茶屋（本陣）跡」。古い石垣や趣のある門はこの地に建てられた一八四八年当時のままである。門には彫刻が施された懸魚（妻飾り）も見られ、気品すら感じさせる。

今回は、時津町民俗資料館

の学芸員を務める山下弥生さんに同行していただき、特別に建物の内部に入ることができた。一八四八年に建て替えられたこの建物は、幕末まで茶屋として機能し、その後明治になって民間に払い下げられ、昭和初期には質のいい水が湧いたことから造り酒屋として使用されていたという。つい最近まで持ち主の方がお住まいだったということもあり、内部は一部現代を感じさせる箇所があるものの、柱や柱に施された釘隠し、床の間や縁側などは充分に当時の面影を残していた。興味深かったのは、床の間の壁が和紙を重ねあわせてできていること。

山下さんによれば、「身分の高い人が宿泊する場合などは、側近の者が不測の事態に備えて壁の裏に潜んでいて、いざとなれば壁を蹴破れるように和紙で作っていたのでは」という面白い説もあるんですよ」とのこと。昔は抜け穴もあったというから、この建物にはまだ解き明かされていない秘密があるのかもしれない。

※「日本二十六聖人」とは、1597年2月5日、豊臣秀吉の命令によって長崎で処刑された26人のカトリックの司祭、修道士、信徒。

時津町には面白い歴史がたくさんあります。

■時津町の文化財にも指定されている茶屋の門、■門に施された懸魚、■茶屋の脇には小川が流れる、■二十六聖人がこの道を通った頃は舟越橋はまだかかっておらず、彼らは飛び石つたいに川を渡ったという。

時津町民俗資料館
時津町野田郷62
TEL.095-882-0003

学芸員 山下弥生さん



Old Togitsu Road

鯖くさらかし岩

街

道沿いからは、時津町で最も有名な名所を望むことができる。それが「継石坊主」。別名「鯖くさらかし岩」と呼ばれる奇岩である。その昔、この岩の下を通りかかった魚売りが今にも落ちそうな岩を見て「落ちてから通ろう」と待っていたが、いつまでも岩は落ちてこず、結局かごの中の鯖を腐らせてしまった。という民話から、こう呼ばれている。

それにしても、この丸い岩はどこからやってきたのか。――。周囲に岩山があるわけでもなく、見れば見るほど不思議である。この奇岩につ



鯖くさらかし岩
(長崎歴史文化博物館所蔵)

いて書かれた古い書物にも人々が恐れおののいたことだけが書かれてある。どうやってこの状態になったかは記されていないため、今もその成り立ちは謎に包まれている。現在、山の裾野はコンクリートで覆われ、岩そのものにも安全対策が施されているため、恐怖心はそれほどでもないが、江戸時代に描かれた絵を見ると、岩がむき出しで強烈である。鯖を腐らせるほど恐がるのも頷ける。

時津街道を通った人々にもきつと名所として知られていたこの岩だが、昭和の時代にはのんびりとしたエピソードが残っていると山下さんは笑う。「この辺りに住むお年寄りは子どもの頃、肝試しでこの岩に登って遊んだそうです。岩の上に登ると、時津港まで見渡せたそうですよ」。

最後に時津が港町であることを伝えてくれる場所を訪れ



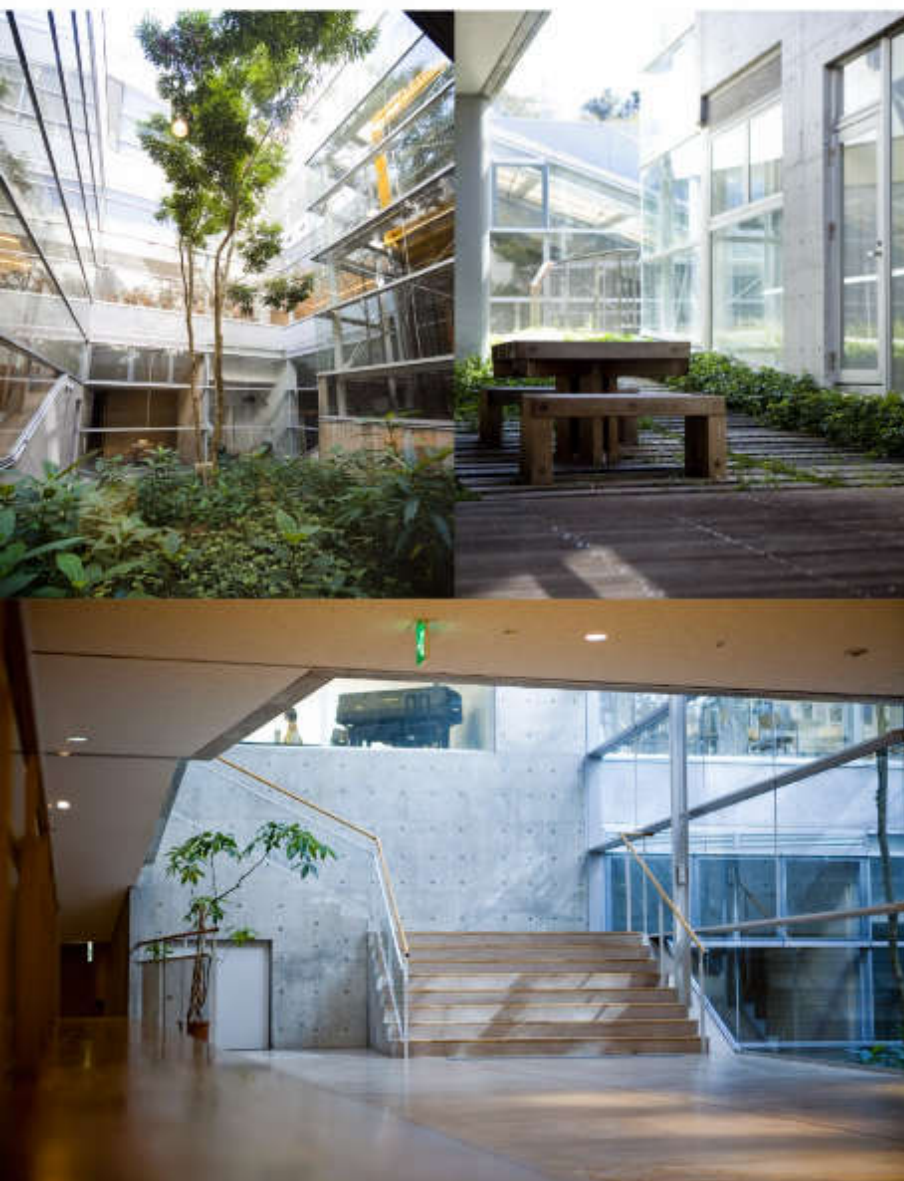
跡に記されている恵比壽様。風雨にさらされながらも右手に釣り竿、左腕に鯛を抱えている姿が見られるものもある。神秘的な空間だ。

怖がる人々を
継石坊主は
笑っているかもしれない。

た。時津港から海岸線沿いを北へと真っ直ぐ進み、山の中へ分け入ると、そこには数体の恵比壽様が祀られていた。風雨にさらされた様子からとても古い時代のものであることが伺える。一列に並んだ恵比壽様は鳥居越しに大村湾を望んでいる。鳥居のある場所から祭するに、本来は海上からお参りするべきなのだろう。今でも地元のペーロンの漕ぎ手たちは競漕の前に舟で訪れ、必勝祈願をするというが、大村湾を行き交う舟に乗った江戸時代の人々もまた、海から見える鳥居に手を合わせ、航海の安全を祈願したことだろう。

「時津」という地名には「宝物を積んだ船が満ち潮に乗り、沖から吹く風に運ばれてくる港」という意味が含まれているという。この地に暮らす人々の幸せを願って名付けられた港町には、今日も気持ちのいい風が吹いている。





Togitsu Canary Hall



Togitsu Canary Hall

森の中から
聞こえてくるのは
軽やかで美しい
文化のさえずり

「とぎつカナリーホール」は、今から十年前に町民の熱い声に応えて設立された。緑豊かな「文化の森公園」の中にあるこのホールは開館以来、地方ではなかなか目にするのできない、世界で活躍する音楽家のコンサートや日本の伝統芸能など、実にレベルの高い催し物を行うことと知られている。

小さな町でこれだけ活発な活動が続けるためには町民の力が不可欠。イベントはボランティアによる運営委員会が企画され、イベント当日も約七十名が登録しているホールサポーターが対応するという。

館長の下妻路美子さんはこう話す。「精力的な活動は町民の皆さんの熱意によるものです。私たちは皆さんの後押しがあつてこそがんばることができます。ホールの主役が町民の皆さんであることを日々、肌で感じますね」。

退職後、車で旅行をしたり山登りを楽しんだり、自由を満喫していた下妻さんが文化事業に携わっていた現役時代の経験を買われ、館長に就任したのは今年の春のこと。再び「社会と深い関わりを持ちたい」と考えていた矢先のことがあったという。館内に入っ

た瞬間はガラス面が多く、どこを歩いても明るい光が射し込み、空と緑が目に入る。そして廊下を歩いていると、ガラス越しにダンス、ピアノ、太鼓、バイオリン…と様々な練習風景が目飛び込んでくる。下妻さんは「館内には児童館が併設されていて、子どもたちが大勢遊びに来ます。子どもたちは遊びの時間の中で大人たちの練習風景に触れ、様々な文化に興味を抱くようになるんです」と話す。時津町の子どもたちにとって、ホールは特別なときに行く場所ではない。それはもはや生活の場である。彼らは大人になつたとき、どんな時津町をつくっていくのだろうか。今から楽しみだ。

当施設では、子どもたちに芸術に親しむ機会をつくることを目的として、町内の小学生を年に一度招待し、コンサートや演劇などを観賞してもらおうという取り組みを行っている。プログラムは子どもたちの発達段階によって異なり、例えば今年の中学三年生が観賞したのは「ウィーン・フーゴ・ヴォルフピアノトリオコンサート」。世界で一流と認められた音楽家たちによる演奏会だ。



平成14年に設立されたホール。プロも認める音響設備を誇り、毎年様々なコンサートや演劇などが行われており、その幅広いジャンルとレベルの高さで注目を集めている。

とぎつカナリーホール
時津町野田62
TEL.095-882-0003

とぎつカナリーホール 検索

「シシングハースト」は、大村湾を望む静かな場所に佇んでいる。自然豊かな環境が気に入って町田さん夫妻がこの場所に店を移転したのは十二年前のこと。長与町生まれの裕司さんにとっても、

「シシングハースト」は、大村湾を望む静かな場所に佇んでいる。自然豊かな環境が気に入って町田さん夫妻がこの場所に店を移転したのは十二年前のこと。長与町生まれの裕司さんにとっても、

「シシングハースト」は、大村湾を望む静かな場所に佇んでいる。自然豊かな環境が気に入って町田さん夫妻がこの場所に店を移転したのは十二年前のこと。長与町生まれの裕司さんにとっても、

「シシングハースト」は、大村湾を望む静かな場所に佇んでいる。自然豊かな環境が気に入って町田さん夫妻がこの場所に店を移転したのは十二年前のこと。長与町生まれの裕司さんにとっても、

「シシングハースト」は、大村湾を望む静かな場所に佇んでいる。自然豊かな環境が気に入って町田さん夫妻がこの場所に店を移転したのは十二年前のこと。長与町生まれの裕司さんにとっても、

「シシングハースト」は、大村湾を望む静かな場所に佇んでいる。自然豊かな環境が気に入って町田さん夫妻がこの場所に店を移転したのは十二年前のこと。長与町生まれの裕司さんにとっても、

アンティークをこよなく愛する 町田裕司さん 富美子さん

まちだゆうじ・ふみこ
20年ほど前に長崎市内で妻の富美子さんがアンティークショップを開業。その後、長与町高田郷に店を移転し、ご主人の裕司さんと一緒に経営を始める。12年前に大村湾を望む長与町高田郷へ再度移転し、現在に至る。商品への信頼度が高いことから、地元だけでなく県外からも足を運ぶ根強いファンが多い。

Sissinghurst (シシングハースト)
長与町高田郷1670-3 TEL.095-887-3878

長与町

ニコリスト Nagayo

地域特集
長与町
Nagayo Town

「シシングハースト」は、大村湾を望む静かな場所に佇んでいる。自然豊かな環境が気に入って町田さん夫妻がこの場所に店を移転したのは十二年前のこと。長与町生まれの裕司さんにとっても、

「シシングハースト」は、大村湾を望む静かな場所に佇んでいる。自然豊かな環境が気に入って町田さん夫妻がこの場所に店を移転したのは十二年前のこと。長与町生まれの裕司さんにとっても、

自分の好きなことを
自然体で追求する——。
このまちにはそんな
輝く人たちが大勢いた。



長崎県立大学シーボルト校に面白いサークルがあると聞き、訪ねた。案内されたのは、メディア調整室を兼ね備えたスタジオ。大学とは思えない、テレビ局並みの設備である。

「映像制作団体 Siebo (シーボ)」は、インターネットテレビ、ネットラジオ、フリーペーパーを中心に様々な活動をしている総合メディアサークル。

創部五年目の新しいサークルだが、昨年はNHK杯においてライブ部門とCM部門で三位入賞を果たすなど、その実力は本物だ。現在部員は九十四名。その大半が情報メディア学科の学生で、それぞれが報道やドラマ、ドキュメンタリーやショートムービーなど、興味のある分野で活動をしている。代表を務める河野美来さんは「授業で学ぶのは映像制作の基礎。サークルでは各自が作りたいものを形にするためにはどうすればいいかを考えながら取り組みます。サークルは授業の応用編ですね」と話す。

同サークルが制作した映像は YouTube の「siebocom」

ニコリ
スト
2
Nagayo
Town

長崎県立大学
シーボルト校の
名物サークル

映像制作団体 Siebo

Mass Communication Circle Siebo

と検索すれば、誰でも観ることができると。実際に観てみると、学生たちが楽しみなながら映像を制作していることが伝わってくる。撮影や編集はもちろん企画や脚本、役者までこなすため、一人一人の学生に求められるものは大きい。サークル活動の魅力は河野さんは「取材する中で多くの人に出会い、この活動をしていなかったら決して聞くことのできない貴重な話を聞けるのが楽しい」と言う。また、副代表の谷川翼さんは「カメラワークや絵コンテを考える時間が楽しくてたまらない」と話してくれた。

しかし、イメージ通りの映像が撮れなかったり、どう編集したらいいか迷ったりと、出来上がりまでにはいくつもの壁もある。完成品を観た他のメンバーから容赦のない厳しい言葉をぶつけられることもあるという。でも、だからこそ納得できるものが出来た時の喜びは大きい。

現在、三年生の二人は就職活動中。河野さんは報道に、谷川さんはドラマやバラエティ番組の制作に興味があ

り、二人ともテレビ局への就職を希望しているという。二人に共通しているのは「映像を通して多くの人に伝えたい」「一生を通してものづくりをしたい」という、サークル活動を通して築き上げてきた想い。彼らのこれからに期待したい。

映像制作団体 Siebo
長崎県立大学シーボルト校のサークル。映像、音声、出版物など、各種作品の自主制作を行っている。制作した映像は YouTube (ユーチューブ) にて配信。地域のイベントなどにも参加し、学内だけでなく学外でも活動の輪を広げている。

長崎県立大学シーボルト校
長崎県長崎市野々1-1-1
TEL.095-813-5500

長崎県立大学シーボルト校 検索



待っていたのは、
最高のキャンパスライフ。
モノづくりって、
本当に楽しい！





このまちを元気にしたい。
その思いが
オリーブの木にたくさんの夢を实らせる。

長

与町を代表する特産品といえ、みかん。しかし、

みかん農家の高齢化に伴い、近年は農地の荒廃化が進んでいる。この状況をなんとか打破したいと立ち上がったのが、福田傳さんをはじめとする十数名の有志だった。みかん栽培は重労働の上、大変な手間を要する。高齢になっても栽培できる、みかんに代わる新しい作物はないだろうか。

そんなとき出会ったのがオリーブである。福田さんたちはオリーブの島とも呼ばれる香川県の小豆島へ見学に行き、比較的育てやすく、耐久性の強いオリーブなら長与町でも栽培できるのではないかと確信を持ったという。そして平成二十二年、「長与町オリーブ振興協議会」を設立。現在、三十六名の会員がそれぞれの畑でオリーブ栽培に力を注ぎ、取り組みは実りつつある。荒廃地をオリーブ園に蘇らせる試みは九州で長与町が初めてとあって、今では九州各県から視察団が訪れるまでになった。

会員の一人、浜口格さんのオリーブ園を訪ねた。海を見下ろす段々畑には、たくさんの実を付けたオリーブの木が植わって

る。「オリーブの木は実を付けるまでに五、六年かかるといわれています。私が木を植えたのは四年前。こんなに早く実を付けるなんて大成功です」と浜口さん。

成功の影には、大いなる支援と努力があった。同会是小豆島のオリーブ園と技術提携を結び、全面的な支援を受けているほか、自身でも定期的に剪定の講習会を行うなどして技術力を高めてきたという。また育てやすいとはいっても、やはりオリーブも生きもの。浜口さんは「愛情を注ぐ、手をかけるほどに育ててくれます」と話す。

まだまだ長与町のオリーブ栽培は始まったばかり。一昨年はオリーブオイルの商品化に成功したものの、昨年は天候不良のため収穫量が少なく、商品の生産ができなかった。それでも、今年は楽しみにしていてください。年内には良質のオリーブオイルができますよ」と福田さんは満面の笑みを浮かべた。今後は、長与町の新しい特産品として、商品を展開していく計画だ。長与町がオリーブのまちになる日もそう遠くはないかもしれない。

ニコリ
スト
3
Nagayo
Town

九州初の試みで
まちづくりに取り組む

長与町オリーブ振興協議会

おリーぶしんこうきょうぎかい
平成21年7月、荒廃地を利用してオリーブ栽培を広める目的で設立。地道な活動を続け、現在、長与町での栽培面積は約7.7ヘクタールまでに拡大し、植栽総本数も4,800本と増え続けている。会員は36名。

長与町オリーブ振興協議会
長与町青森568
TEL.095-883-1549
長与町役場農林水産課
長与町植里569-1
TEL.095-883-1111

十 九年前、西海市の雪浦地区に一軒のハム屋がオープンした。山深い場所にあ

りながら、そこで作られるハムやソーセージの美味しさは人から人へと伝わり、今や県内でも名を馳せるハム屋となった。

そんな「ながさき雪の浦手造りハム」が昨年十一月、長与町高田郷に移転オープンした。店内では約三十種類のハムやソーセージが販売されており、迷うほどの品揃えである。

素材はすべて県内産の新鮮な豚肉を使用。保存料や着色料は一切使わず、添加物も必要最低限に抑え、伝統的な本場ドイツの製法で一本一本手作りしているのが特長だ。二代目の岩永龍介さんは「店を始め

た両親は、私が幼いころ体が弱かったこともあり、とにかく体にいいものを」という考えがあったようです」と話す。こだわりの素材だけではなく、難しいスモークの温度管理も機械には頼らず、すべて経験による勘で行っているという。その日の気温などによって微妙な調整が必要のため、絶妙なタイミングは職人にしか分からないというわけだ。

恵みの歳時記 地域特集 長与町 Nagayo Town

「安全、安心」と
美味しさを目指して

ながさき 雪の浦 手造りハム



ながさき雪の浦手造りハム
長与町高田郷1677-6
TEL:095-887-2568
※11月、12月はカフェは
休業、販売のみ。

雪の浦手造りハム 検索

長崎県産の
新鮮な豚肉で作る
絶品ハム&ソーセージ

焼き立てのソーセージをいただいた。パリッと嚼んだ瞬間に、肉そのものの風味が口いっぱいに広がる。普段食べているソーセージとは全く別物だ。「ソーセージ肉」ということを改めて教えてくれる味わいてある。

龍介さんは移転をきっかけに、長与町の特産品である「みかん」を使った「長与みかんソーセージ」を考案した。みかんとソーセージとは意外な組み合わせだが、口の中に爽やかな味と香りがほんのり漂い、とても美味。「果汁を入れてみたり、試行錯誤したのですが、みかんの皮を肉に練り込むことでこの味が生まれました。もちろん、みかんは無農薬ですよ」。

ずっと職人として働いてきた父親に食べた人の喜んだ顔を見せたいと、龍介さんは移転に伴い、工場の横にカフェを併設した。ドイツビールと共にソーセージプレートやホットドックなどの軽食が楽しめるのとあって店は盛況。店内は美味しさの笑顔であふれていた。





タルトやヒュッケリ

いちじくのタルト& 黒糖くるみのタルト

素材自体の素朴な味わいが楽しめるタルトは常時5種類。遠くから足を運ぶ熱心なファンを持つ知る人ぞ知る人気店とあって、商品は売り切れ御免。冬はきんかんやチョコレートなどが登場する予定だ。

長与町郷里534-3-201
tel.090-2097-5699

タルトやヒュッケリ 検索

Nagayo Town

燻製工房 薫助

牡蠣の燻製 オリーブオイル漬け& ピリ辛いりこの燻製

今年7月にオープンしたばかりの燻製専門店の人気商品。サクラ、ブナ、ナラの本をブレンドした特製チップでじっくり燻したチーズや魚介類は美味。牡蠣は大村湾産、いりこは長崎産。ワインのお供にどうぞ。

長与町郷里2522-1
tel.095-865-6360

燻製工房 薫助 検索



長崎県立大学

シーボルト校生協食堂

セルフバー の学食

バイキング形式の学食は1g=1.26円の量り売り。サラダに肉料理、魚料理、ごはん、味噌汁、デザートと充実の内容がうれしい。もちろん一般の人も食べられるので、学生気分を味わおう。

長与町まなび野1-1-1
tel.095-887-5552
(長崎県立大学シーボルト校生協)

シシングハースト

スコーン& クロテッドクリーム ジャム

門外不出のレシピで作られる絶品スコーンはこの店の看板メニュー。牛乳を煮詰めて作るクロテッドクリームとブルーベリージャムとの相性が最高の逸品。

長与町郷里1670-3
tel.095-887-3878



巨峰

時津町は長崎県内最大の巨峰の産地。毎年8月中旬から9月中旬にかけて巨峰狩りを楽しむことができるほか、地元の直売所でもリーズナブルな価格で販売している。甘みと酸味をほどよく含んだ時津産の巨峰は格別。



大村湾特産のなまこの卵巣を薄甘塩でつけた「このこ」と、なまこのはらわた「このわた」。どちらも日本酒に合う珍味。

時津町浦郷542-18
tel.095-882-2415

Togitsu Town



100年以上の歴史を誇る「時津まんじゅう」。こしあんがたっぷり入ったまんじゅうはいくつでも食べられそうな美味しさ。お土産にもぴったりだが、まずは店頭でアツアツをいただきたい。町内にある3店のまんじゅう屋にて販売。

元祖時津まんじゅう 中村
時津町浦郷301-16
tel.095-882-2340

藤山餅屋
時津町浦郷277-2
tel.095-882-2527

川林まんじゅう
時津町浦郷441-6
tel.095-882-2402

時津・長与で
出会った
おいしいもの

大村湾漁業協同組合
このわた
このこ

生食用の巨峰を使って作られた珍しいワイン。原料の巨峰はもちろん100%時津産。フルーティーで甘口のワインは飲みやすく、女性に好評だ。年間5,000本の限定販売という幻のワイン、ぜひお試しあれ。

時津町西時津1373
tel.095-882-2793

とぎつワイン巨峰

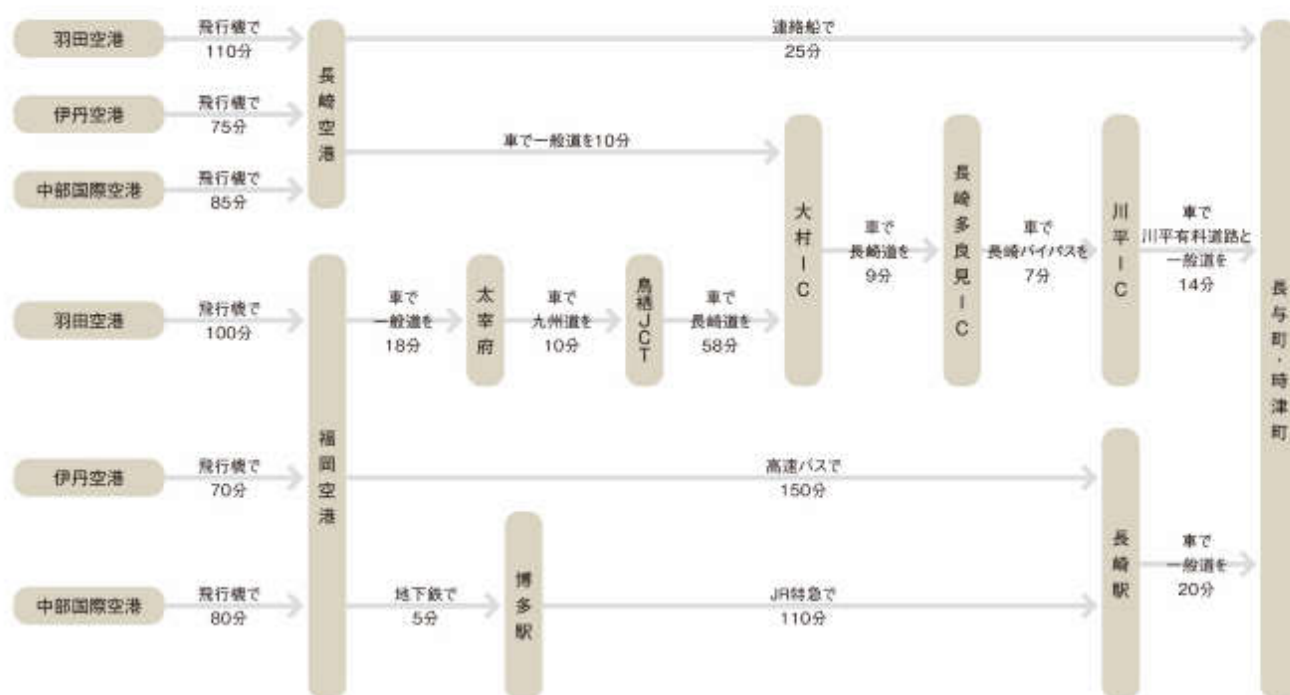


時津 まんじゅう





時津町・長与町へのアクセス



語りかける風景

10

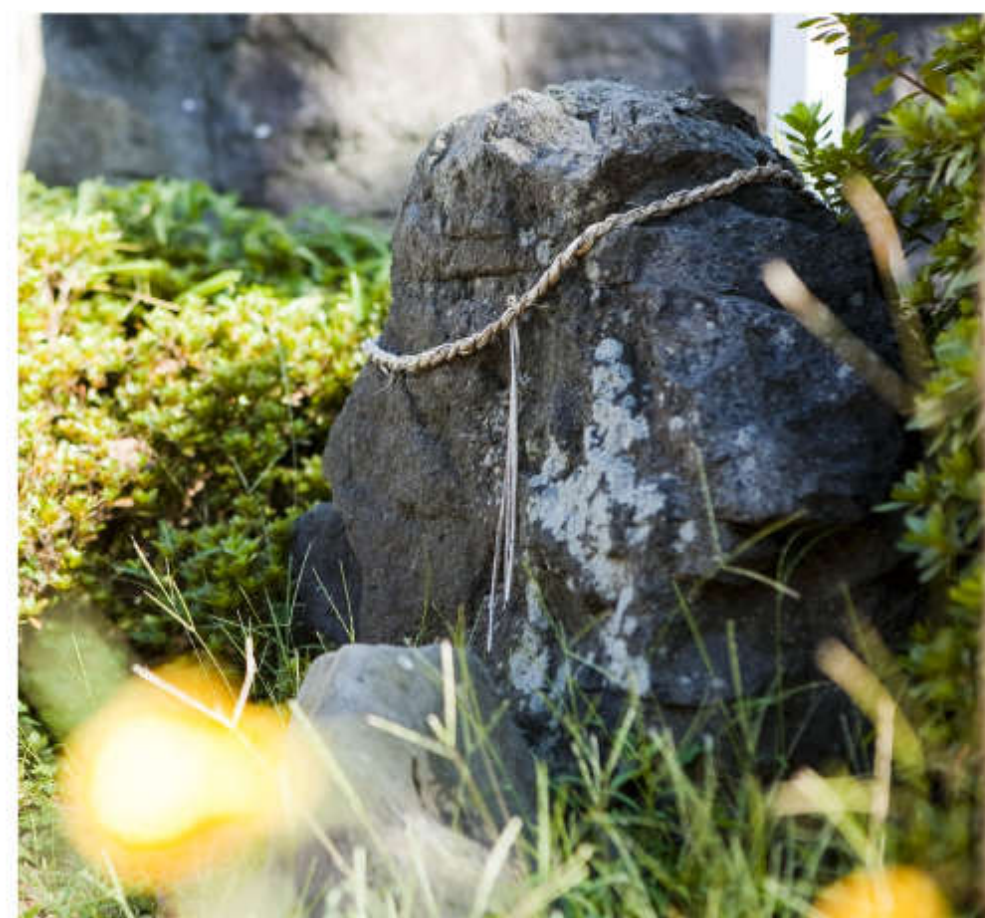


住宅地に佇む
ともづな石

時津町でまち歩きを楽しんでいるとき、地元の人に親しまれているという八幡神社に立ち寄った。鳥居をくぐる前に見つけたのが、この「ともづな石」である。案内板を読むと、この辺りは十九世紀前半頃までは海岸であり、これは港に入った船を繋いでいた石だということだ。その後、地元の人たちの間でこの石は不思議な力を持った奇石だということが広まり、崇敬されて祀られたのだという。つまり、この石は住宅に囲まれたこの場所が波止場だったことの証。

時津まんじゅう屋で出会ったおばあちゃんにサラリと言った。「うちは百年以上前からまんじゅうを作っています」。

大型商業施設と住宅地が広がる時津町には、古い建物や町並みはあまり残っていない。しかし、こんなふうにちゃんと歴史は眠っている。ふと見つけた石も立派な歴史のひとつ。誰にも気付かれなくても、ともづな石は今日も住宅地の中でひっそりと佇んでいる。耳を澄ませば、石の声が聞こえてくるかもしれない。



この石だけが
かつてここが
海だったことを知っている。

長崎和牛が初の日本一!!

～第10回全国和牛能力共進会～



開会式が華やかに行われました

10月25日～29日、佐世保市のハウステンボス第1駐車場と島原市の島原復興アリーナを会場に、長崎で初となる全国和牛能力共進会が開催されました。

常陸宮同妃両殿下をお迎えして行われた開会式には全国から約3千人が参加し、県警音楽隊の演奏や龍踊りのアトラクションが大会を盛り上げました。

審査会では、各道府県の予選を勝ち抜いたスーパーエリート牛が集結する中、長崎市の渡部英二さん、川棚町の喜々津昭さん、島原市の

古川繁信さんの共同出品牛が肉牛の部で見事、最高賞に当たる内閣総理大臣賞を受賞。本県勢は、種牛の部、肉牛の部の全9区すべてで優等賞を獲得しました。

また、各会場では全国のブランド和牛の試食やコンサートなど多彩なイベントも催され、会期中、約48万6千人の来場者でにぎわいました。

今大会を機に、長崎和牛の知名度や取引価格の向上と長崎の食や観光などの魅力発信に弾みがつくものと期待されます。



入賞牛が胸をはってパレード



各会場がイベントでにぎわいました

TOPICS

トピックス

おめでとう!! 内村航平選手

～県民栄誉賞特別賞～



表彰状を手に笑顔の内村選手(右)と中村知事

9月19日、ロンドンオリンピックで県勢初の金メダリストとなった体操の内村航平選手(諫早市出身、コナミ)が県民栄誉賞特別賞を受賞し、表彰式の会場となった県庁で多くの人々が拍手と歓声で祝福しました。

その後、諫早市で行われた凱旋パレードには、市民など約1万2千人が駆けつけ、オープンカーに乗った内村選手が金メダルを手に笑顔で歓声に応えました。

内村選手は、「皆さんの応援のおかげで金メダルを持って帰ることができました」と感謝の言葉を述べ、4年後のオリンピックへの決意を語りました。また「2014年長崎がんばらば国体」に

についても「地元で恩返しできるのなら出場したい」と話しており、今後の活躍にますます期待が高まります。



大勢の市民に笑顔で応える内村選手